

公共放送の在り方に関する集中審議

[議事録 2/4]

・NHK 会長等の発言と取材への影響

吉川沙織君

私は、この国会の場での議論というのは非常に大事であると思っています。新聞や雑誌の記事もちろんずっと残っていくでしょうが、国会のこの場での議論における質問者、そして答弁者の発言内容は重要であり、かつ将来もずっと参照されるべき重要な資料です。

先月の委員会で、衆議院通信委員会での池田NHK元会長の発言なども引用しながら質問をさせていただき、国会を軽視しないでくださいという旨のことを申し上げました。以下、この点を念頭に置いていただいて真実をお答えいただければと思います。



去る3月6日の「クローズアップ現代」でケネディ駐日大使のインタビューが放送されました。したがって、NHKにおいて実際に大使のインタビューという企画、取材が行われていたことは事実であることが確定できました。

この番組の中で国谷キャスターは次のような発言をされています。

アメリカの議員、在日アメリカ大使館、そしてアメリカ・メディアは相次いで日本政府関係者や安倍政権が国会の同意を得て任命したNHK経営委員、そしてNHK会長による歴史認識に関わる発言を批判し、日本のリーダーの歴史認識に懸念を強めています。そしてまた、日本とアメリカの関係は、安倍政権の一員、それにNHKの経営委員や会長の発言によって影響を受けていると言わざるを得ません。

こうコメントされています。実際の放送部分だけでも二回言及されており、もしかしたらこれ以外にも言及があるのかもしれませんが。会長等の発言によりNHKの現場が混乱をして大変であるとの現場からのSOSであると私は受け取っています。

このことに対する会長の御感想をお伺いいたします。

参考人(初井勝人君)



まず、「クローズアップ現代」についてですが、これはもう番組を御覧いただいたとおりでございます。

それから、現場の意見につきましては、先ほども申しましたけれども、やはり非常に真面目に、真摯に受け止めて、我々はそういう声に対応できるように努力をしていきたいというふうに思っております。

吉川沙織君

会長御自身の発言に端を発する様々な問題、そして、2月25日の衆議院総務委員会で、理事の方々の勇気をもって発覚しましたが、理事全員から辞表を取り付けたという報道は、恐らくNHKニュースの中で放映をされていないはずで、そんな中で、国谷キャスターは放送部分だけで2回も、経営委員とNHK会長はと、こう言及をされています。本当に勇気のある私は御発言だったのではないかと考えています。

私は、2月の7日には、NHKの担当者が米国大使館の関係者と面談した際に、会長等の発言を受けインタビューが一時的に困難になったとNHKの担当者が判断し、この面談結果が2月7日付けと2月10日付けの文書にまとめられ、会長にも報告されているものと私は確認しています。



この件に関しまして、2月19日の質疑の際、会長は、2月13日の定例記者会見で、同日時点で知らなかったのかどうか、こういう問いを記者から2回問われ、最終的に、聞いていない、ないと思います、こういう答弁をされていたことから、同趣旨の質問をこの場においてさせていただきました。結果、会長は、「2月13日時点では本当に知らなくて、その前は、そういう話は一切会長の耳にも入ってなかったということなんですね。」とお伺いしたのに対し、会長は、「そういうことでございます。」、こう答弁されています。これは、会長がNHK内部で何ら報告の事実もなかったという事実と反するとも取れる答弁をしているようにしか捉えられません。

もしNHK側が面談をしてNHK側の受け止めとしてそう受け止めたのであれば、NHKほどの組織であればトップである会長の耳に入っているのが当然だと考えます。会長へは報告がなされ、2月10日には報告を受けたと理解しています。

重ねて会長に伺います。2月13日より前に「クローズアップ現代」への取材に関する報告を受けておられたのではないですか。もし受けていたとするならば、2月19日の私の質問に対する答弁は事実と反することに

もつながりかねませんが、いかがでしょうか、会長。

参考人(初井勝人君)



結果として、「クローズアップ現代」でケネディ大使とのインタビューがなされました。私はこれが全てだというふうに思います。中での文書の何月何日にどうしたということについては、これはいろいろあるかもしれませんが、私は、私の申したとおりでございます。いずれにしましても、この問題につきましては、この前、先般ケネディ大使とのインタビューがなされたことだと思います。

国谷さんの御質問については、これは国谷さんが自分で考えて、質問されたことですので、私がコメントする立場にはございません。

吉川沙織君

今、報道されたのが結果だ、それが全てだという、こういう答弁でございました。

この件に関してはもう更に問うことはいたしません、私は、NHK 内部での報告、連絡はなされていたと考えています。しかしながら、本件に関するやり取りについて、2月19日のこの場でのやり取りもそうでしたが、NHK は取材、制作に関することであり答えられないと言い、米国側は公式に見解を表明していないため、実際のところは判断できかねます。ただ、言えることは、真実を権力がゆがめるようなことがあっては断じてならないということです。第四の権力とも言える報道に携わる NHK が、公共放送として真実を報道していかれることを強く期待いたします。



経営委員長及び監査委員に申し上げます。

ただいま指摘いたしましたインタビューに関する会長の発言、そして、これから指摘申し上げます理事全員の辞表を取りまとめた件も含め、一連の会長等の発言の問題が NHK の取材、営業の現場に大きな支障を招いていないかというこの点について、会長が尊重されるとされる放送法において、第四十四条第一項に監査委員会による調査の規定がある以上、これに基づいて早急に調査することをお願いいたします。そして、その調査結果に基づいて、会長が職務執行の任に堪えるのか、非行は認められないのか、是非判断をいただきたいと思っております。

経営委員長、そして監査委員におかれましては、調査し、そしてその結果を当委員会へ報告いただけますか。

お伺いいたします。

参考人(浜田健一郎君)



現在、会長の発言等について厳しい御意見が各方面から寄せられていることについては真摯に受け止めております。

経営委員長として、会長には二度にわたって注意を行い、また、3月11日の経営委員会で申合せを行いまして、経営委員会の総意として誠に遺憾であることを確認し、会長にもその旨を伝えております。

経営委員会としても、一刻も早い事態の收拾に向けて、自らの責任を自覚した上で真摯な議論に基づく自律的な運営を引き続き行い、監視・監督機能を十分に果たしてまいりたいと思います。

放送法第四十四条第一項に基づく調査につきましては、監査委員会が判断することでございますが、経営委員会が自ら継続して真摯に取り組んでおり、監査委員会は、現在、一連の事態とともに経営委員による対応を注視しているところであると理解しております。

参考人(上田良一君)

お答えいたします。

監査委員会といたしましても、現在、会長の発言等について厳しい御意見が各方面から寄せられていることは真摯に受け止めております。

これまで、経営委員長が会長に、先ほども御説明がございましたが、二度にわたって注意を行い、また、3月11日の経営委員会で申合せを行って、経営委員会の総意として誠に遺憾であることを確認し、会長にもその旨をお伝えしております。



また、経営委員会は、一刻も早い事態の收拾に向けて、自らの責任を自覚した上で真摯な議論に基づく自律的な運営を引き続き行い、監視・監督機能を十分果たしていくことを申し合わせております。

この問題につきましては、就任会見における会長発言の直後から経営委員会が自ら継続して真摯に取り組んでおります。監査委員会といたしましても真摯に取り組んでまいる所存であり、引き続き、一連の事態と経営委員会による対応を注視してまいりたいというふうに思います。

吉川沙織君

今、経営委員長、そして監査委員からそれぞれ誠実な御答弁をいただきました。

ただ、2月19日の参議院総務委員会におかれまして、3月6日の放送に係る件について、監査委員は、会長の一連の発言に端を発することに関しては会長以下の役員から報告は受けておられない、こういう答弁をなさいました。でも、一方、3月6日の件に関しましては、「そのような報道があることはもちろん承知いたしておりますけれども、個別番組の制作過程に関することにつきましてはコメントを差し控えさせていただきたいというふうに思います。」と、こういう、経営委員長とはニュアンスが異なる答弁をなさっています。初井会長以上にアメリカでも御活躍をされた上田監査委員、米国では報道、言論の自由が大切に尊重されています。ですから、経営委員会、監査委員会、それぞれ自律的にその機能を発揮されることを期待しています。

続きの議事録(3/4)は、[こちら](#)です。